

# みどりの

# 通信

第121号

令和5年2月発行



下北地域県民局 地域農林水産部 **農業普及振興室**

〒035-0073 青森県むつ市中央一丁目1-8

TEL : (直通)0175-22-2685 / FAX : 0175-22-3212

JA十和田おいらせ稲作振興会むつ支部、[あおもりの旨い米グランプリ]で

**祝 グランプリ受賞！ 祝**



JA十和田おいらせ稲作振興会むつ支部が「あおもりの旨い米グランプリ」団体の部「まっしぐら」でみごと最高賞の“グランプリ”を受賞し、令和4年12月20日、三村知事から表彰状が授与されました。

「あおもりの旨い米グランプリ」とは、県産米の評価向上に向けて良食味生産の機運醸成を図るため、平成27年から始まったものです。

表彰状を授与された相馬 誠 部会長（東通村）は、夏季冷涼な下北からの初のグランプリ受賞という快挙に「更にいい米を作っていきたい」と力強く語りました。



令和4年度で6年目を迎えた産直市「しもきたマルシェ」。新型コロナウイルス感染症対策に万全を期し年5回開催しました。

今年度は目玉企画として、高校生が野菜の栽培・販売体験を行う「チャレンジ野菜ショップ」、会の新しいロゴマークを決める「新ロゴマークデザインコンテスト」、下北管内の音楽団体による「発表会マルシェ」、調理体験「もっと知ろう！しもきたの“食”調理講座」など、来場者参加型の企画を多数実施し、毎回多くの来場者で賑わいました。

令和5年度も様々な企画を用意して、皆様のお越しをお待ちしています。また、2月から、来年度の出店者募集が始まります。興味のある方はお問い合わせください。



←心躍る、  
新ロゴマーク

令和4年も大盛況！  
「しもきたマルシェ」

令和4年10月、東通村の濱田裕子さん が献納した黄粟が、新嘗祭の供進された旨の「伝達書」が濱田さんに届けられ、無事、献穀されました。

夏秋いちごに取り組む濱田さん。粟の栽培は経験がなかったため、は種やかん水、除草はもちろん、収穫間近の鳥害防止や強風対策と気の抜けない数か月でしたが、天候にも恵まれ、9月にはふっくらした大きな穂をつけました。脱穀、精粟、選別、磨きを経て、黄金色の献穀粟に仕上がりました。

たいへんお疲れ様でした。

※「新嘗祭」とは、毎年11月23日に天皇陛下が新穀を天の神と地の神に供え、自らも食する宮中の祭儀。



「精粟 五合」  
右 献穀新嘗祭之節  
御供進被為在候事  
令和四年十月十五日  
掌典長 加地正  
濱田 裕子 殿

↑東通村 畑中村長  
も応援に！

新嘗祭（にいなめさい）に  
「黄粟」（きあわ）を献穀

農業普及振興室では、障がい者の就労促進と農業者の労働力確保に向け、平成26年度から農福連携の推進に向けた取組を進めています。

今年度は令和4年11月24日に、むつ市城ヶ沢地区の濱田久美子さんのほ場で、福祉施設関係者や農業者等を対象とした「下北地域農福連携連絡会議及び現地研修会」を開催し、農福連携の取組事例紹介や農作業見学を行ったほか、意見交換を行い、農福連携に対する理解を深めました。

農福連携は、障がい者が自信や生きがいを持って社会参画するのを実現することができ、農業者にとっても働き手不足を解消できるため、障がい者サイドと農業者サイドのどちらにもメリットのある取組です。

農福連携に関心のある方は、お気軽に当室にお問い合わせください。



「農福連携」の取組、  
下北地域で広がっています！

■地域の宝、  
「郷土料理」を次世代へ！



たべもの工房 来美里（こびり。相馬かづ代表）では、県から「農山漁村女性地域共生モデル実証」の委託を受け、若い世代を対象とした郷土料理伝承教室の開催、地元食材を活用したワンコイン弁当の開発と試験販売の実施など、次世代への郷土料理の伝承に着目した取組を行っています。

けんちん汁や東通そばといった郷土料理伝承教室に参加した若い世代からは、「懐かしい味がする」「もっと練習して上手に作りたい」、「作り方を覚えることができ嬉しい」との声が上がるなど、地元で長年愛され、受け継がれてきた郷土料理に対して理解を深めることにつながりました。

令和5年2月には、べこ餅づくりの教室を開く予定です。

■SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）  
を活用しよう！



農業普及振興室では、新規就農者や女性起業者、更には「しもきたマルシェの会」会員の販売力強化に向け、インターネット販売やSNS関係の研修会を開催しています。

今年度は、青森市の企画・デザイン会社「ディーシーティーデザイン」代表の蝦名晶子氏を講師に、令和4年7月1日、12月2日に「SNS情報発信研修会」を開催し、SNSを活用した効果的な情報発信や近年のSNSの利用動向、SNSユーザーの心をつかむ投稿のコツ、LINEの法人向けサービスの活用方法などを研修しました。

近年、一般企業でもSNSを利用し、マーケティング活動に生かす傾向が強まっています。

当室では今後もこのようなテーマの研修会を企画していきますので、興味のある方はぜひ御参加ください。

■漁業体験「入門編」、  
親子アジ釣り体験



佐井村の基幹産業、漁業。しかし、担い手不足と漁業者の高齢化が大きな課題です。

農業普及振興室では、共助・共存の農山漁村づくりの活動を佐井村で進めています。村民との話合いの中で、漁業を知らない子どもが多いことが話題となりました。

学校と連携し、村の漁業を体験させてはどうかという意見を受けて村が実施したのが、「入門編」としての「親子アジ釣り体験」。令和4年9月24日、佐井漁港で親子6組が参加しました。

漁業の担い手確保と地元定着という「未来予想図」の輪郭を明確にするため、来年度はどのような体験を進めていくか、今後検討することとしています。

■ ストップ！ 農作業事故  
スタート！ メンテナンス



←メンテナンスの  
基本を学ぶ

令和4年8月24日、東通村の「東通そば乾燥貯蔵施設」で、名誉農業経営士である杉本稔さんに講師をお願いし、「農作業安全・農業機械講習会」を開催しました。農作業安全に関する座学での研修に加えて、トラクターを用いての点検・オイル交換の方法を実習しました。

本県では、毎年20人前後が農作業中に負傷したり、亡くなったりしています。慣れた作業であっても油断せず、また、トラクターではシートベルトの着用もしっかりと！

作業前の点検や、定期的なメンテナンスを行い、機械を長く使っていきましょう！



■ 出掛けてみませんか？  
新しい産直施設「PLOW」



↑店内は新鮮野菜がいっぱい



←「青森のうまいものたち」Webサイト

令和3年12月にオープンした下北で最も新しい産直施設が「PLOW LOCAL VEGETABLES SHOP」（プラウ ローカル ヴェジタブル ショップ）です。

むつ市の代官山公園にあり、野菜料理研究家、野菜ソムリエ、ViC・ウーマンでもある齊藤とまえさんが代表のこの施設は、生産者の顔が見えるこだわりの旬の野菜、そして調理器具がいっぱいです。

施設の新鮮な野菜が原材料の加工品や、カレー、おでんもあり、むつ市街を眺めながらの食事楽しめます。キャンプ場としても整備された代官山公園にたたずむPLOWへ一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。

※ 県では、「あおもりの郷土料理レシピ本プレゼントキャンペーン」（2/1～28）を実施中です。

PLOWでお食事すると、もれなく応募用紙がもらえます。詳しくは、青森産品情報サイト「青森のうまいものたち」を御覧ください。

お知らせ

近づいています、  
インボイス制度の  
事業者登録期限

インボイス制度は、税務署に申請し登録することで、請求書に登録番号（インボイス）を記載することができるようになるものです。これにより、取引先が消費税の仕入れ額控除を行うことができます。

登録番号を記載した請求書でなければ、仕入れ額控除を行うことができないため、取引先が余分に消費税を納める必要があります。

しかし、取引先が農協や卸売市場の場合は、農協や卸売市場が登録番号を発行する特例制度があります。このように、取引先によっては事業者登録を行わず、免税事業者のままで支障がない場合もあります。

インボイス制度は令和5年10月1日から施行されますが、**事業者登録は令和5年3月31日まで**に行わなければなりません。事業者登録を行う必要がある場合は、期日に余裕を持って申請しましょう。

詳しくは、お近くの税務署にお問い合わせください。